

やっぱり、CO₂大幅削減は自然力で！

今日、家庭では地球温暖化防止のために、省エネ機器を購入し、冷暖房での控えめな温度設定・冷蔵庫内の整理整頓・スイッチ付きタップの使用…など多様な努力をしています。しかし、大きな効果が出ていないのが現状です。そこで家を新築する際、方位の工夫によってCO₂大幅削減を実現した上遠野様邸を紹介します。



撮影は2008年6月21日夏至の南中時(11時38分、太陽高度76.4度)家が真南向きなので軒先の影と建物は厳密に平行線。

影の軒先、東軒時、南中時、夏至・夏



冬の日射取得量を多くするために南側開口は大きくしましたが夏至の南中時では、ご覧の通り南側軒先が日差しを完全に遮断。

影の軒先、西軒時、南中時、夏至・夏



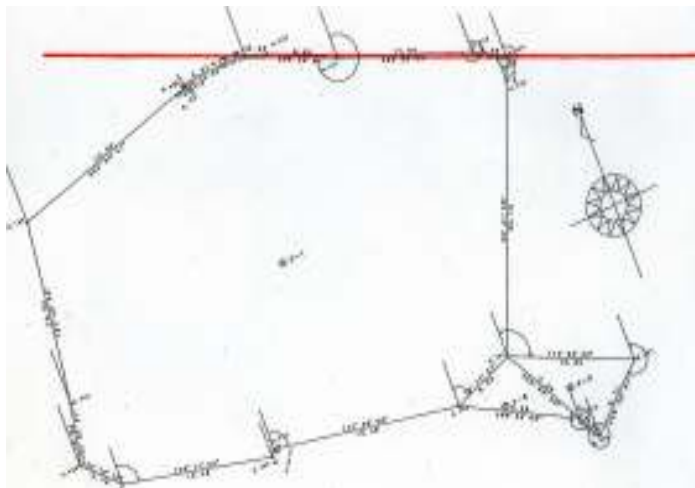
**方位角振れ敷地でも絶対方位を基準「≒真南向きの家」設計手法
用紙と方位は同じ向きで、設計者・建て主とも方位の誤解を回避！**



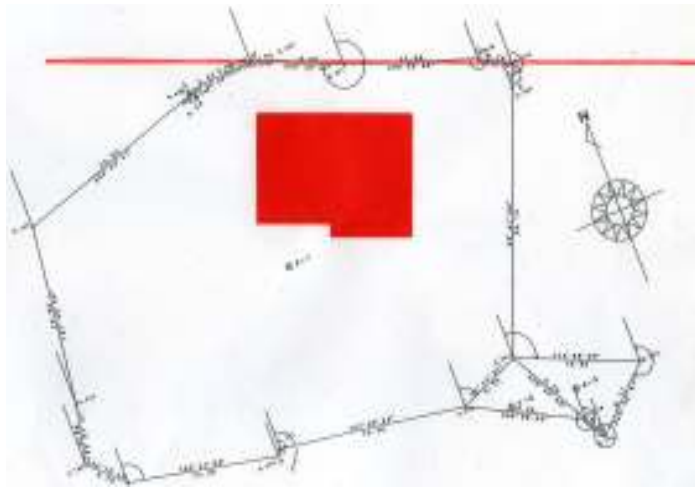
**これで「真南向きの外壁面を有する家」の配置が確定しました。
なお、敷地を有効利用するために、建物形状は部分相似形に！**



**冬至より太陽高度が少し高い3月3日の昼、日影位置を確認！
南側開口部からは、部屋の奥まで十分な日差しが入って納得！**



方位角振れ敷地だが絶対方位基準を無視「誤南の家」設計手法
境界線と用紙を同じ向きにすると南西向きや南東向きの家に…？



当初から家の方位を甘く考えていると、折角の新築後、夏冬共
苦悩が多いエネルギー大消費型の「誤南の家」になる恐れが！



今まで暮らした家は南西向きなので、夏は強い日差しが部屋の中
にたっぷり入り、冬は日差しが大変少なかったとの事でした。



敷地北の境界近くに水路と田んぼがあります。そこから浸透した水が敷地内をジメジメさせ、シロアリ被害で困っていました。



敷地北側では水路に沿ってリサイクル材で暗きょ工事。材料は建物解体の瓦をバックホーのキャタピラで砕いたものと珪砂。



暗きょ工事をしたおかげで敷地北側はいつもカラカラに乾燥！
建物1階中央部は、おばあちゃんの農業・園芸用道具の物置。



**ド根性椎茸、現場周囲の片付けをしたときに見つけー！
早速その日の夕食に、焼いて醤油味で美味しく頂きました！**



**アンカーボルトとおばあちゃん、以前測量会社の勤務経験。
昔とった杵柄で、基礎芯だしでも測点押さえのミッションを！**



**建て前での投げ銭をナイスキャッチ！ 2月11日は上棟式。
この前後日は悪天候でしたが、当日は穏やかな1日でした。**

[トップページへ](#) [知的財産権所有：株式会社 松本建築デザイン]